■施工上のご注意（施工に当っては取扱説明書に従って工事を行ってください。）

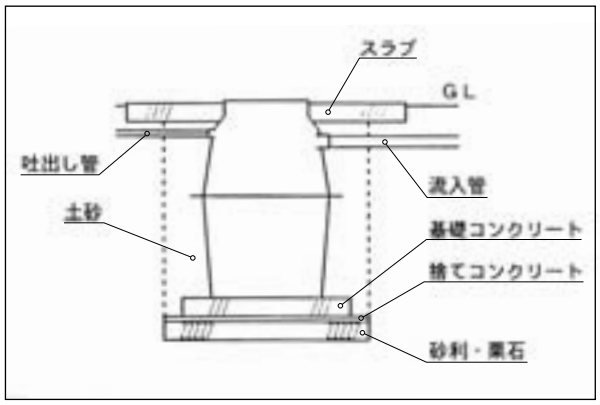
●一般的な基礎工事

基礎工事を完全に行うことは、中継槽全体の水平の確保と不等沈下の防止のため、きわめて重要です。

（1）割栗石地業
栗石（割栗または玉石）と砂利（切込み砂利）による栗石地業を行います。掘削の際に荒らされた地盤を固めるのが目的ですから、つき固めは、栗石が土中に充分くい込むように念入りに行う必要があります。
割栗石は、約 15cm の厚さで、「タコ」等を用いてつき固めてください。

（2）捨てコンクリート打ち
約 5cm の捨てコンクリートを打ってください。なお、この捨てコンクリートの段階でしっかりと水平を出しておいてください。

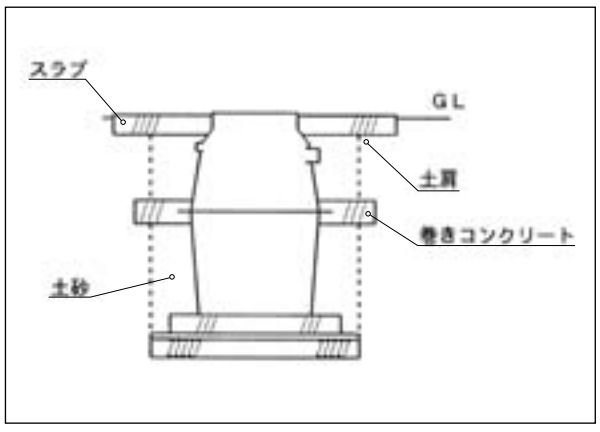
（3）基礎コンクリート打ち
基礎仕上げ高さを確認し、水平に約 15cm のコンクリートを打ってください。なお、これらのコンクリートを省略して砂だけを敷いたような基礎を作りますと、長い間に砂が洗い流されて、栗石の鋭角な部分が直接槽の底面に接し、破損する恐れがありますので必ず、コンクリートを用いてください。
スラブ、底盤等は型枠を組み型枠の水平を設定し施工して下さい。



●湧水などで中継槽の浮上が心配される場合

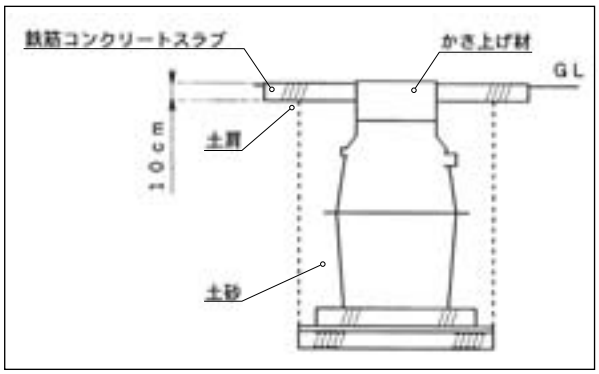
湧水がある場合は、湧水条件を確認のうえご相談ください。湧水条件によっては、標準槽で対応できない場合があります。

【施工例】
フランジ（浮上防止）のまわりに巻コンクリートを施してください。

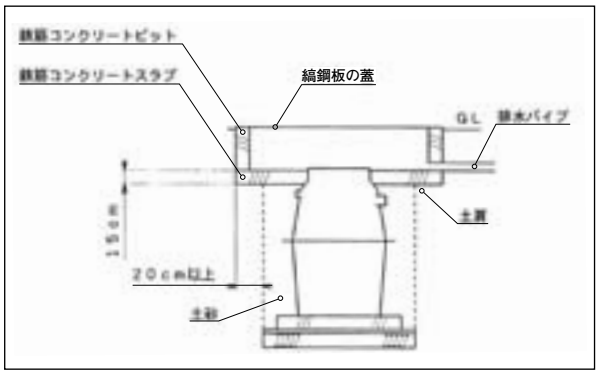


●流入落差の不足する場合（かさ上げ工事を必要とする場合）

1）かさ上げが 30cm の場合
特別付属品のかさ上げ材を用いて行ってください。
また、上部は鉄筋コンクリート仕上げとし、荷重は土肩で受けるようにしてください。
・鉄筋の径：φ9cm
・ピッチ：20cm（タテ、ヨコ共）



2）かさ上げが 30cm 以下で 1）項以外の場合
（1）維持管理が容易に行えるよう、鉄筋コンクリートのピットを中継槽の周囲に設けてください。ピットの上面は、縞鋼板等で蓋をしてください。
（2）ピット内は、排水できるよう施工してください。



3）かさ上げが 30cm を超える場合
（1）維持管理が容易に行えるよう、鉄筋コンクリートのピットを中継槽の周囲に設けてください。ピットの上面は、縞鋼板等で蓋をしてください。
（2）ピット内は、排水できるよう施工してください。
（3）中継槽を保護するため、中継槽の周囲にも鉄筋コンクリート製の土どめ、または支柱を設けてください。